



荻野運動公園・ターゲット・ド・ゴルフ大会

(撮影 小林会員)

令和4年10月号 Vol. 222

(2022年)

発行：令和4年10月8日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <http://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者 会長 森島 誠 編集担当者 澤田 正弘

《荻野川ハイキング・秋の景色を探して》

行事区分：企画ガイド（ハイキング）

日 時：9月30日（金）9：00～14：30

場 所：荻野地区

（源氏河原～荻野神社～広町公園）

参加者：一般11名、元会員1名、会員9名



荻野川・銅座橋

長期予報の雨マークに心配していましたが、秋晴れの青空の下、暑さや日焼けが気になるほどの好天になりました。1班編成で全員一緒に行動しました。

最初の説明ポイントは延命地藏、源氏河原と新人の藍澤会員が順調に説明。諏訪神社では、昔、果実の皮を石鹸に使ったというムクロジ（無患子）があり、その実が実際に石鹸として使えるか実験。お客様も興味津々の様子でした。そして、下見のとき、道を間違えた怪我の功名で発見したケイトウ（鶏頭）の花畑に。赤や黄色の色鮮やかなケイトウにお客様も感激。しばらくは写真の撮影会のような様子でした。

荻野の山々を背に稲の掛け干しをながめ、日本の里の秋を感じながら、厚木市内最古、最大級の神社建築である荻野神社に到着。ここで昼食となりました。



荻野神社

昼食後、これも新人の石川会員より神社の詳細な説明がありました。また、高橋会員からは、境内にある自身の先祖である蟹殿洞々の句碑の説明がありました。

あつぎこどもの森公園では、森を歩く日本一長い空中回廊を歩き、童心に帰り長さ106mの滑り台を体験。お客様には特に滑り台が好評でした。

戒善寺では寺の由緒のほか、自由民権運動にも触れ、「当時神奈川の中心は愛甲郡であり、愛甲郡の政治の中心は荻野村である」という言葉に当時の荻野の熱気が感じられました。

最後の広町公園では、神奈川県で絶滅危惧種Ⅱ類の水生植物「ミクリ」を探すが、下見の時にはあったのに刈り取られてありませんでした。皆がっかりしていると隣の小さな池に少しだけ生えているのを発見し、大喜びで締めくくることができました。

(清田邦男 記)



ケイトウ（鶏頭）の花畑



ミクリ（絶滅危惧種Ⅱ類の水生植物）

《“明治の群像” 明治の偉人たち》

行事区分：訪問ガイド研修（かながわガイド協議会）

日 時：9月22日（木）9：00～12：30

場 所：大磯町

参加者：会員4名

9月22日（木）9時に「大磯ガイド協会」担当の訪問ガイド研修が始まりました。悪い天気が続いて心配されましたが無事大磯駅近くの公園をスタートしました。他の協会からの参加者39名が7班に分かれ、E班の私たち4名はみうら観光ボランティアガイド協会のメンバー1人とガイド2名の合計7名のグループでした。



まず、日本で最古のツーバイフォー工法の本下邸を見ながら線路北の山側を案内してもらいました。安田善次郎の別荘を見た後「人材を育てた偉人たち」の副題の通り、現在の有名大学の創設に係わった偉人の邸宅の話を見ました。長崎大学医学部、東京大学医学部の基礎を作った松本順は、大磯海水浴場を開き、「塩湯治」を提唱し、大磯ステーション（大磯駅）を作り、明治の偉人たちの別荘を呼び込んで大磯の恩人と言われています。

その後、線路をくぐり海岸側を回りました。こちらにも西園寺公望邸、後の池田成彬邸、伊藤博文滄浪閣、大隈重信邸、陸奥宗光邸、古川別邸とビックネームが続きます。この辺りは明治記念大磯邸園として整備中の見学となりましたが、バラ「プリンセスミチコ」を育てたというバラ園も有り次の機会に訪れてみたいです。ガイドの途中では新島襄、石川達三、島崎藤村と数え切れない名前が出て説明が続きました。最後は戦後混血児の養育に尽力した澤田美喜の聖ステパノ学園で解散となりました。

大磯駅のホームには全く広告看板が無く殺風景で、街の中にはファミレスも在りません。休みなく3時間以上歩いて、昼食を心配しましたが厚木のメンバーが知っていた「鳥料理」の店に入り初めて食べた「博多丼」に舌鼓を打ちました。

(小林 記)



《 お城シリーズ 》

厚木市内に本当にお城があったのでしょうか？12月16日開催予定の企画ガイド『七沢城と七沢の里の歴史を尋ねて』の事前学習用として当会お城博士の田頭会員から山城について、8月号、9月号に引き続き投稿していただきました。しっかり学んでガイド係に立候補してください。（編集担当）

厚木にある山城「七沢城址」 (3) 田頭 文昭

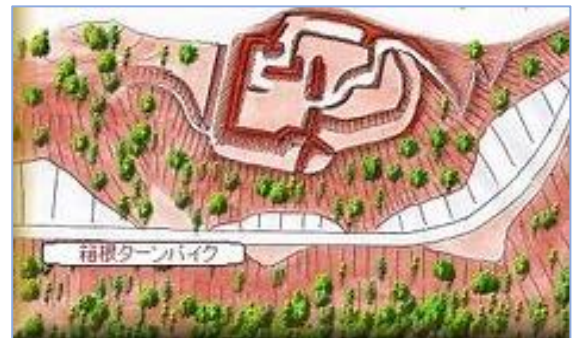
◎山城の進化

- ・南北朝内乱が終わり、室町幕府が全国政権として成立すると山城はほとんど使われなくなります。理由は、敵の攻撃から身を守る事を重視して必然的に山奥に築いたので、政治の拠点として不便であった為です。
- ・ところが戦国時代に南北朝の様に戦乱が日常的になり、戦いの舞台として再び山城が脚光を浴びる様になりました。

○山城進化パターン

①尾根利用のパターン

南北朝時代の代表的な山城で、尾根頂上部に複数の曲輪を造ったシンプルな構造。天然地形を最大限利用しており土木技術も初歩的。



相模御所山(みどころやま)城
(神奈川県小田原市早川)

②腰曲輪利用パターン

… 七沢城はこのパターン

戦国時代に入り発達、尾根頂上に複数の曲輪を築き、さらに山腹を囲う様に腰曲輪を配置。兵の配置がより多く出来て戦略的な防御が可能となる。



美濃松尾山城 (岐阜県関ヶ原町)

③複数尾根利用パターン

戦国末期大規模な山城に発達。複数の尾根頂上に、曲輪を多数配置しそれぞれの中腹に腰曲輪を配置してる。中には数百もの曲輪を配置したのも出現。山全体が一つの要塞と化した。



駿河高天神城 (静岡県掛川市)

○山城の築城方法

- ① 縄張り … 城の設計に基づき縄を張り土木作業を始めます。

自然地形を活かした山城の縄張りは千差万別だが、基本は山頂に主郭を置き、四方八方の尾根筋を段階的に削平して防御施設を配置する構造になっています。

- ② 縄張りに沿って土木工事を行います。

土壌の整備＝まず夫役を集めて縄張りに沿って土を固める。

土を掘る＝鍬や鋤を使って掘削する。すべて手作業。

土塁を造る＝曲輪の外側に堀を造り、出た残土を曲輪の内側に盛り上げて、叩いて固め強度を高める。※基本的に、以上の繰り返しで城を形づくる。

防御の対応＝敵の侵入を防ぐ工夫として、縄張りに沿って各工事を行う(堀切、切岸、豎堀、障子掘りほか)

構造物建築＝武器庫、食糧庫、見張り櫓、門など。

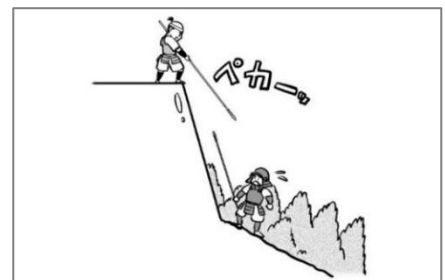
- ③完成後の補強・手直し及び拡張を状況により実施します。

敵の攻撃を想定して、防御の強弱を再点検して防御の施設の見直しと補強・手直しを行います。落城しない城を目指し、人・物・金と期間を考えて拡張と防御の強化を図り「絶対落ちない城」を目指します。

○山城の防御の工夫例

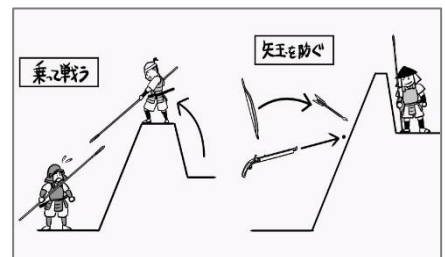
- ① 切岸（きりぎし）

曲輪周囲を削り、人工的に造成した急斜面(人工崖)を這い上がる敵を防ぐだけでなく、曲輪の面積を確保して守りを強化出来るので、山城では多様される防御構造になる。



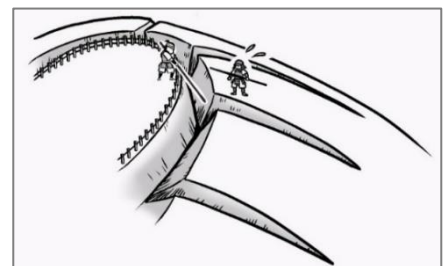
- ② 土塁（どるい）

防備の為に、土を盛り土居としたもので、元々は堀を掘った土を築き固めて、堀との落差をつけ防備を固める目的でつくられた。高さは基本三間(5.46m)はあった。



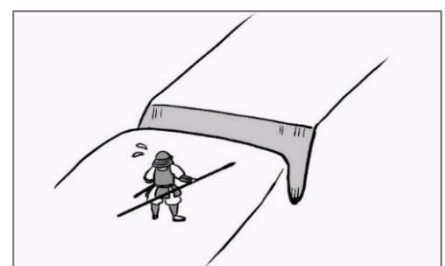
- ③ 豎堀（たてぼり）

山腹の上から下方向に向け縦方向に掘られた堀の事で、山腹に堀る事で、敵が斜面をつたって山上へ押し寄せたり、横移動するのを防ぎ、山上から敵を攻撃した。



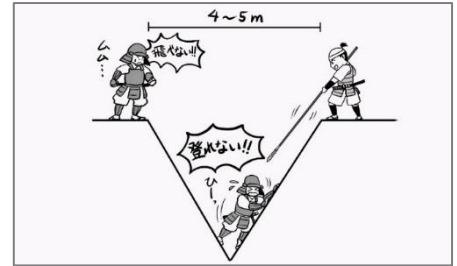
- ④ 堀切（ほりきり）

尾根を横方向に断ち切る堀。山頂の主郭部を目指すには尾根筋を進むのが楽だが、これを断ち切る事で敵を足止めできる。曲輪と曲輪を区切る場所にもよく設けられている。



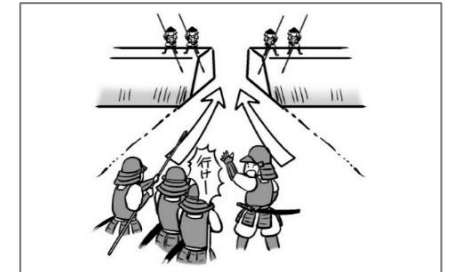
⑤ 薬研堀（やげんぼり）

断面がV字形になった堀。薬を作る道具の薬研の形からの名称で、掘底に入ると身動きが取れず、上から攻撃もしやすくなり少しの土木量で効果絶大だった。



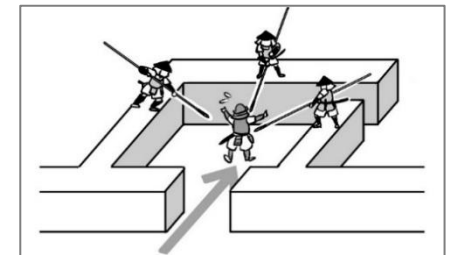
⑥ 虎口（こぐち）

城の出入り口で、防御の面で最大の弱点といえる部分で、土塁をずらして直進を防ぐ「食違虎口（くいちがいこぐち）」や、四角い空間を造り側面から攻撃する「枅形虎口」等が造られ、攻防の要となった。（⑦参照）



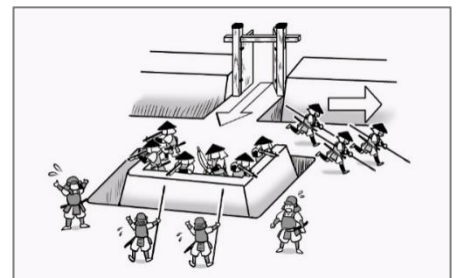
⑦ 枅形虎口（ますがたこぐち）

土塁等で四角に囲う、通路を曲げる等の工夫がされた虎口のこと。「枅形」は四角い形を意味し容量を図る「枅＝ます」からの名称。侵入してきた敵を封殺し、三方から攻撃可能にするのが目的。



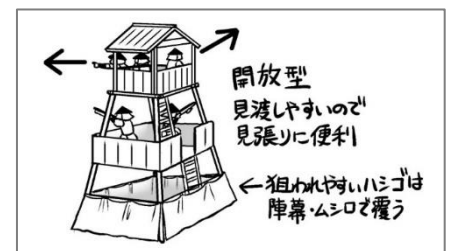
⑧ 馬出（うまだし）

虎口の外側に、虎口を囲むように塁を築いて形成した小さな曲輪。塁の外側が堀で、両側に出入口を設置。塁を角型に築いたのが角馬出し、半円型に築いたものが丸馬出しという。



⑨ 井楼櫓（せいろうやぐら）

丸太や材木を、井桁状に組んで造った櫓のことで、盆踊りの会場に立っているものと同じで、あり合わせの材料で、簡単に造れるので見張り用として重宝された。



◎山城の攻防戦

○天然の山岳地形を利用して築かれた山城を攻め落とすには、時間を要し多くの兵力が必要で消耗も多く困難を極めました。そこで城を攻める武将たちは、さまざまな策を巡らし攻略しようと考えて行いました。

① 調略 … 城内の敵方家臣に謀反をさせ内部分裂を画策

・月山富田城(島根県)の例 ～ 尼子義久を毛利元就が攻略、城主尼子義久が、兵糧を入れ城を支えていた重臣を讒言により殺害する。城内が揺らぎ兵糧も尽きて、城兵の投降が相次ぎ降伏開城する。

② 兵糧攻め … 周辺の村々から米を買い占め補給路を断つ

・鳥取城 (鳥取県)の例 ～ 吉川経家を豊臣秀吉が攻略
豊臣秀吉の城攻めで「鳥取の渴(かつ)やかし殺し」として有名な攻城戦です。戦いが始まる前に、周辺の村々から米を買い占めて補給が厳しくなるように調略し、城の周囲に陣城を築き城攻めを開始する。籠城 100 日に及び、毛利の応援も無く兵糧も尽き、ついに降伏し、吉川経家は自害する。

③ 孤立化 … 城の周りに砦と要塞を築き、孤立化させる

・小谷城(滋賀県)の例 ～ 浅井長政親子を織田信長が攻略

元々同盟関係であった浅井長政が同盟を破棄した為、織田信長が小谷城攻めを開始する。しかし小谷城は堅城で、なかなか落城しないとして力攻めを避け、陣城を構えて城を包囲するが落城に3年を費す。包囲のち最後まで支城の役割をしていた山本山城が、調略により開城し、孤立無援となり最終的に落城する。

最近の活動

日付	場所	内容	参加者
9月 9日	厚木市役所	文化財一般公開の勉強会 「妻田薬師」	会員 9名
9月 10日	アミューあつぎ	定例会	会員 19名
9月 17日	アミューあつぎ	ガイド養成講座 「活動内容紹介と入会説明会」	会員 13名
9月 18日	厚木消防署 玉川分署2階	ガイド配布資料作成・読み合わせ 「荻野川ハイキング」	会員 10名
9月 22日	大磯町	訪問ガイド研修 「明治の偉人たち」	会員 4名
9月 26日	荻野地区	企画ガイド下見 「荻野川ハイキング」	会員 8名
9月 28日	妻田薬師	妻田薬師見学&一般公開打合せ	会員 7名
9月 30日	荻野地区	企画ガイド 「荻野川ハイキング」	会員 9名
10月 1日	妻田～飯山	企画ガイド下見 「厚木の巡礼道を辿る」	会員 9名
10月 3日	南公民館	編集会議	会員 3名

編集後記

晴天の中「荻野川ハイキング」が無事終了しました。今回のお客様にはホームページを見て参加された秦野市や座間市の方もおられました。近所の人とお話しをしていたら「荻野川ってどの辺にあるのですか？」という質問があり、源流から相模川に合流するまでの流れを説明しました。厚木市内に長い間住んでいても、何かのチャンスが無いと、なかなか市内の川を見る機会が無いのが実情だと思います。当協会は厚木市内を中心にハイキングガイド、歴史探訪ガイドを行って、大勢の方に厚木市内の見どころを紹介してゆく役目があります。みんなで頑張りましょう。

編集委員 阿部 啓冊 小林 直樹 澤田 正弘 前澤 宣子